

国保多古中央病院 大腸 CT 検査の紹介

近年、医療機器の進歩により、大腸の精密検査が内視鏡検査や注腸造影検査だけでなく、CT 検査でも可能となりました。今まで、大腸精密検査は注腸造影検査か大腸内視鏡検査が主でしたが、前処置が辛いことや検査時の痛みにより敬遠される患者さんもいらっしゃいました。そこで、大腸 CT では前処置を工夫し、検査時の苦痛が少ないよう大腸を炭酸ガスで拡張させ、CT 検査をします。その CT 画像を3次元化することで、バーチャル内視鏡像を作成し診断する最新の検査法です。当院では、平成 25 年から大腸 CT を開始し現在に至るまで、数多くの症例と日々検査技術を磨くことで、大腸 CT の経験と実績を積んできました。

検査方法

・前処置

前日から低残渣食(S&B レトルト食品製)と毎食後、コロンフォート(便を標識するための大腸 CT 用バリウム)を飲みます。さらに、就寝前にも少量の下剤を飲んで、残渣がなるべく残らないように腸内をきれいに整えます。

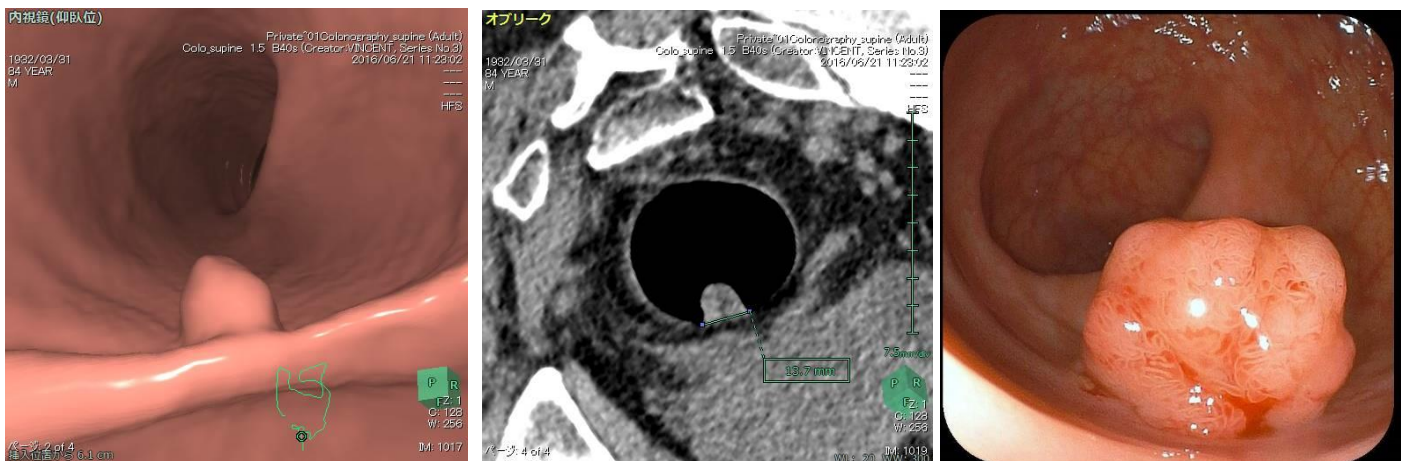
・検査当日

検査では肛門から大腸内に炭酸ガスを注入するための鉛筆程の大きさのチューブを挿入します。大腸内をよく観察するために十分膨らみきった状態で、仰向けとうつぶせで CT 検査をします。その CT 画像をもとに3次元画像を作ります。

・注意点

大腸が膨らみきった状態の画像を得るために検査中は肛門をしっかり閉めてもらいます。検査中は大腸を膨らますため、おなかが張ったような痛みがあります。検査前後で日常生活等に制限はありませんが、下剤服用によりおなかが緩くなることがあります。また、排便を促すためになるべく水分を摂取していただくようお願いします。検査開始は 11 時を予定していますが、検査状況により多少前後してしまうので、少し早めにお越しください。検査の所要時間は、説明、更衣なども併せて約 30 分程度要します。**※女性技師希望の方は、予約時に申し出てください。**

実際の検査画像【大腸3D-CT 画像(左)、CT 画像(中央)、大腸内視鏡画像(右)】



大腸 3D-CT 画像で指摘した部位に 13mm 大の Isp-polyp を認めました。

大腸 CT の利点と欠点

利点 美味しい検査食と少ない下剤で前処置が比較的楽である。
検査時の苦痛が少ない。
検査時間が短時間で済む。

欠点 被ばくを伴う。(通常のCT検査と同じ量で、人体に影響がでる線量ではありません。)
病理検査(細胞診)ができない。(病変があった場合、後日内視鏡にて病理検査を行う事があります。)

大腸 CT の診断結果、精度

大腸 CT の経験と知識を積んだ、当院の放射線技師と医師にて、ダブル読影を行い慎重かつ丁寧に読影し、診断結果を出しています。6mm 以上の隆起性病変はほぼ検出可能ですが、平坦型病変や 5mm 以下の小さなポリープなどは内視鏡の検出能には劣ります。また、前処置不良、撮影時呼吸停止不良があった場合、診断精度が落ちる可能性があります。予めご了承ください。

検査費用

診察費用、検査費用、検査食費用等、全て込みで約3万円(自由診療)→ 健康保険にて3割負担の方で約9千円になります。

患者さんの声

検査食が美味しかった。(70代男性)
内視鏡に比べて、下剤の量が少なくて良かった。(80代女性)
内視鏡に比べて、痛くなかった。(30代女性)
前日、トイレに行く回数が多くおしりが痛い。(60代女性)
検査中、おならをガマンするのが辛かった。(80代女性)
おなかが張って痛かった。(50代女性)

その他、多くの声を頂きました。